

平成30年度愛知農業賞表彰式を開催しました

公益財団法人愛知県農業振興基金では、愛知県の農業・農村の振興や発展に尽くした個人や団体を表彰する農業振興功労者表彰事業（表彰名：愛知農業賞）を平成18年度から実施しています。

このたび、平成30年度の受賞者が決定し、平成30年12月19日（水）午後2時からJAあいちビルにおいて表彰式を開催しました。



（受賞者 左から堀江佐尚氏、熊澤宣明氏）

受賞者のプロフィールは次のとおりです。

担い手育成部門：堀江^{ほりえ} 佐^さ尚^{なお} 氏（南知多町）

平成6年に完成した国営農地開発事業南知多地区内でいち早くキャベツなど露地野菜の機械化による大規模経営を確立しました。知多地域の担い手を育成するため、他地域からの新規参入者を研修生として受け入れ、地域での就農支援や継続的な栽培技術指導などを行ってきました。

現在では、その研修生達も地域のリーダー農家に成長し、新たな研修生の受入れ農家となっています。氏の取組をきっかけに地域の農業者が新規参入者を育成する「広がりシステム」の構築につながり、知多地域の担い手の確保育成に果たした氏の功績は大きいものがあります。

また、農業委員、土地改良区理事、農用地利用組合長、農協理事などを歴任し、後継者の泰之氏に経営移譲した現在でも、担い手の確保育成や地域農業の振興に貢献しています。

農業・農村振興部門：熊澤^{くまざわ} 宣明^{よしあき} 氏（一宮市）

農業従事者の高齢化や減少が深刻な問題となることにいち早く気づき、地域農業の維持、発展のためには専業農家の育成や地域農業のイメージアップが不可欠と考え、様々な活動に取り組んできました。

当時JAが単独で主催していた農業塾の取組を、地元2市を巻き込んで規模拡大し、「はつらつ農業塾」へと発展させる立役者となったほか、当該農業塾の卒塾生を専業農家として自立させるための継続的な支援も行いました。

また、環境保全型農業に関心が高く、エコファーマー制度の発足と同時に自らが所属する部会組織に働きかけ、部会員全員をエコファーマーとした功績は、地域農業のイメージアップや農業所得の向上に大きく貢献しました。

水稲と露地野菜の複合経営で規模拡大を進め、モデル的な経営として地域で評価される氏は、レンゲを使用したコメ作りで特別栽培の認証を取得、JAのプライベートブランドとして販売するなど、地元農産物の認知度向上に大きな役割を果たしています。

氏は営農部会長、農業委員会長、農協組合長などを歴任し、それぞれの立場で優れた指導力を発揮、地域の農業・農村振興に大きく貢献しています。